

人だった、という印象だが、昔は大酒のみで、機嫌の悪い時には普段の我慢を吐き出すべく、喫煙を散らしている姿を覚えている人もたくさんいるだろう。反失業闘争はシェルター、清掃事業、自立支援法ができたりと、行政や国との戦いは一旦終了となつた。

高来さんは、「かちとる会」の炊き出しが拠点とする三角公園に小屋に住み、毎週火、土の炊き出しの整理券配布などを担っていた。高来さんも55歳になった時に特別清掃事業に登録するため解放会館に住民票を置いた一人で、大阪市による住民票削除問題の削除の対象になつた一人だった。住民票削除反対の闘争に参加し、南さんと意気投合し、野宮闘争を頑張り、楠本さんと共に住民票削除差し止め裁判にも取り組んだ。長期間の闘争を頑張った果てに肺炎になり、入院になつた。

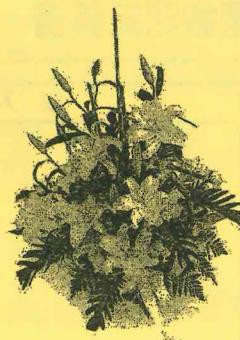
結局、高来さんの住民票は削除されたが、選挙の日、入院先から投票所に向かい、住民票の回復を経て選挙で投票し、仲間に希望を与えた。その後、結核で長期の病院生

活を送つたが、病状が落ち着き、アパートでの生活になつた。その昔「タバコを買いに行く」と言って帰らなかつた家に残した奥さんと子どもとの再会をすることができ、ばらばらに生活していたが、家族が再び繋がることができたのは、ひとえに南さんのおかげだろう。

南さんとの 出会いから 最後の集大成へ

精神的には安定した生活がはじめたが、結核後、肺の難病に罹り、きつい薬のせいでもくみがひどく、いつも体はしんどそうだったが、南さんたちと「憲法を守ろう」と、なめ権の活動は楽しみに続けていた。そんな中、奥さんを看取り、一年前には南さんも亡くなつた。

亡くなる2週間前、高来さんが通う診療所の前でぱったり会つたときには、息が上がり「ここまで来るのに何べんも休まなかん」とかなりつらそうで、その日のうちに日赤病院に入院になつ



た。お見舞いに言った時にしみじみ「南さんがなくなつて一年やな」とか「わしもうあかんな」と話していたが、私は「まだ大丈夫やって」と励ましたが、何の役にも立たず、それが最後になつてしまつた。

高来さんは、南さんと出会つたことで最後の集大成を迎へられたと思う。本当にこの二人を亡くしたことが残念でならない。